

## 令和5年度 第1回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

開催日時 令和5年7月21日（金） 午後2時00分～

開催場所 鎌ヶ谷市役所庁舎3階 303会議室

出席委員 石神裕之委員長、金出ミチル副委員長、高見澤美紀委員、芝崎浩平委員

欠席委員 大内千年委員

事務局 後野主幹（事）文化係長、大竹主任主事、高木主事

傍聴者 0名

1 開会

2 教育長挨拶

3 委員長・副委員長の選出

委員長に石神委員、副委員長に金出委員に決定

4 委員長挨拶

5 議題

会議録署名人の選出について

会議録署名人に高見澤委員・芝崎委員を指名（委員長を除く名簿順）

### 【協議事項】

(1) 文化財の指定について（諮問）

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

石神委員長：印西市龍腹寺で出土した870基の板碑は指定等になっているのか。

事務局：されていない。

芝崎委員：出土した板碑は全て武蔵型板碑か。

事務局：そうである。

金出副委員長：今回の指定候補文化財は、将来的にまた見つかる可能性があると思う。新たに見つかった場合には、同じ名称で点数を増やす

のか。

事務局：そうである。

高見澤委員：萬福寺の「萬」は旧字表記の資料と新字表記の資料があるが、表記についてはどうなっているか。

事務局：市で「万福寺境内遺跡」として位置付けているものについては「万」としている。今回の指定候補文化財については、「万福寺境内遺跡」という遺跡名を使用しているため、「万」の表記で良いかと思う。

高見澤委員：表記が異なってしまうと遺跡と出土品が結びつかなくなることも考えられるため、遺跡名が「万」であれば、その名称と合わせると良いと思う。

石神委員長：これまで、鎌ヶ谷市ではどのように「万」を扱っていたか。

事務局：遺跡名や出土品の名称では、「万」を使用していた。

萬福寺では、旧字の「萬」を使用している。

石神委員長：「資料2 万福寺境内遺跡位置図」の地図上でも「萬」を使用している。

事務局：遺跡名も「萬」に変える必要があるか。

高見澤委員：旧字体は新字で表記するという表記統一ができていればいいと思う。旧字か新字どちらかに統一されていると良いと思う。

事務局：「万」の表記については、萬福寺に確認をする。

石神委員長：発掘調査で出土したということもあり、出土状況等の記録もしっかり取られている。このような形の資料は非常に少なく、大変貴重で極めて価値が高いと思う。

市指定文化財になった後は、県指定文化財になる可能性はあるのか。

事務局：市指定文化財になった後、県に推薦をして県指定文化財になる可能性は考えられる。

石神委員長：これまで鎌ヶ谷市で市指定文化財に指定された後に県指定文化財に指定された事例はあるか。

事務局：鎌ヶ谷市では過去にそのような事例はない。

石神委員長：県内で2番目に多く、まとまった状態で板碑が出土しており、歴史的価値も高いと思う。

#### 【報告事項】

(1) 令和4年度文化財保護主要事業について  
事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

高見澤委員：「7 国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業」の、伐採樹木搬出業務委託は今回で全て完了したのか。

事務局：令和7年に完了する予定である。

高見澤委員：前回会議にて、前委員長の小川先生が言っていたニガキの木は確認できたか。

事務局：まだ確認できていない。造園業者等に聞きながら探してみる。

芝崎委員：「2 指定文化財助成事業」について、指定文化財の中で助成対象外となっているものは、なぜ報償費が支払われていないのか。

事務局：助成対象外の文化財は、市所有や市に寄託されている文化財である。個人所有の指定文化財に対して報償を支払っている。

石神委員長：先ほど指定候補として協議した、万福寺板碑は萬福寺に報償を支払っているのか。

事務局：万福寺板碑は、発掘調査で出土したため、市で所有、管理している。

金出副委員長：「6 千葉県北西部地区文化財担当者連絡協議会」第71回について補足説明がある。第71回勉強会は資料に記載されているとおり、2月10日に丸屋の見学会を予定していたが、天候不良のため中止になっている。しかし、その後7月に実施された。活用に向けた修理の計画段階の現場を見学することができた。

(2) 令和5年度文化財保護主要事業について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

石神委員長：文化財説明看板は説明看板が必要な文化財には全て設置されているのか。

事務局：屋外にある市指定文化財は設置されている。それ以外にも、遺跡の場所を示す標柱が、根郷貝塚や東林跡遺跡などに設置されている。ほかには、中沢貝塚に説明看板を一昨年設置している。指定文化財以外にも数か所設置している状態である。

石神委員長：屋外にある指定文化財は、看板を建てた方が良い。

屋外にある未指定文化財や過去に建てた標柱や看板の建替えは、文化財保存活用地域計画にも関わってくると思うが、今後どうしていく予定か。

事務局：近年は、文化財が新たに指定されたタイミングで、新指定文化財の看板を設置している。それ以外は、文字が薄れていたり劣化が激しかったりする看板を年1基ずつ、建替えていきたいと考えている。

現在、各文化財の説明看板は設置しているが、どこにどのような文化財があるという内容の看板が設置できていない。散策ができるような看板の作製は、文化財保存活用地域計画で示しているため今後検討していきたい。

金出副委員長：学校や交番、駅などに設置されている地図に文化財のマークを入れることは出来るのか。

事務局：市で作製する地図では、そこに文化財の位置を入れてもらうようにしている。市以外の地図は、作製している情報が入っていないため、入れることが難しい。

高見澤委員：説明看板のデザイン等のベースは市で決めているか。

事務局：そうである。

高見澤委員：今後作製される看板も似たようなデザインということか。

事務局：そうである。

高見澤委員：看板建替えの際は、解説文を見直しているか。

事務局：見直している。また、文字だけではなく写真や図を入れて分かりやすい工夫をしている。

芝崎委員：市原市では、高校生が鎌倉街道の道案内看板を作製し、生徒自ら地元の人たちに看板設置の交渉を行なっている。高校生が設置するとなると、地元の人たちも承諾してくれる。学校と連携すると、自治体だけではできないことができることもある。説明看板の設置は、学校との連携も考えてみても良いと思う。

事務局：高校生が作成した看板の素材は何か。

芝崎委員：木である。ホームセンターで買いやすい素材を使用している。看板の作製は、学校のクラブ活動として、活動している。ここでは、統一のマークや文言を用いて看板を作製し、設置している。地面は掘らず、家の塀に付けさせてもらっている。地面を掘るとなると制約がかかる。

事務局：参考にさせていただく。

石神委員長：地域の中で、文化財に対して関心を持つ取組は、大事だと思う。

### (3) 国史跡下総小金中野牧跡周知普及事業について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

石神委員長：産業フェスティバルとはどんなイベントか。

事務局：商工振興課と商工会が主催で行うイベントで市内の地場産品の物販を行うイベントである。

国史跡実行委員会の委員に商工会の副会長が入っていることもあり、今回出展することになった。ジオラマ展示やリーフレットの配布などを行い、国史跡をPRできればと思う。

高見澤委員：春の牧ウマまつりを4月から6月に実施した後、初小祭りや産業フェスティバルまで、イベント期間が空いている。夏ごろにイベントを実施できれば良いと思う。春のイベントで興味を持った人たちが捕込に行くきっかけを作れるようなイベントを实

施できれば良いと思う。

芝崎委員：郷土資料館とコラボしたイベントはないのか。

事務局：イベントとしてはない。

春の牧ウマまつりなどのイベントで展示を行う際には、郷土資料館の展示も案内している。

金出副委員長：イベントは教育委員会だけで行なうのではなく、広報部署や商工部署などと連携して実施すると良いと思う。

#### (4) 国史跡下総小金中野牧跡（捕込）追加指定について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

高見澤委員：追加指定範囲の公有地化後は、既存建物の撤去の後に発掘調査などは計画しているのか。

事務局：調査までは計画していない。

捕込の整備は澁谷家住宅の公開後に取組開始を検討している。その際は、以前作成した基本設計を見直す必要があり、その段階で発掘調査が必要となれば調査を実施する。

石神委員長：以前作成した基本設計では、ガイダンス施設の設置も計画していたか。

事務局：していない。

石神委員長：追加指定範囲に建てることは考えられるのか。

事務局：追加指定範囲は現在、県指定範囲である。

金出副委員長：澁谷家住宅の整備後となると、かなり先になってしまうため、追加指定範囲に建てられている既存建物の内部をガイダンス施設として利用することを考えてみても良いと思う。

#### (5) 歴史的建造物保存活用事業について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

金出副委員長：澁谷家住宅も以前調査に入った6～7年前は、ザシキや式台玄関周りや土間から見える梁組などの写真がまだ撮れていない。今後撮影する機会が得られるとありがたい。

図面だけでは主屋を理解するのは難しいと思う。文化財審議会

の委員も現地を見学する機会を設けていただければと思う。

もし、現地見学の機会を設けることが難しければ、委員会時には家相図や現地の写真を大判サイズにして見せながら、説明すると良いと思う。

石神委員長：機会があればぜひ拝見したいと思う。

金出副委員長：審議会として開催するのではなく、有志として開催しても良いと思う。

石神委員長：金出副委員長の写真撮影の日程は決まっているのか。

金出副委員長：まだ決まっていない。千葉商科大学の先生方が澁谷家住宅の3D撮影を行うと聞いているので、そのタイミングで撮影を行えたらと思っている。

千葉商科大学の撮影日はまだ決まっていないのか。

事務局：まだ決まっていない。8月末から9月で調整することになると思う。撮影は、千葉商科大学の朽木先生と3D撮影を扱える先生と学生が行う予定である。千葉商科大学の先生方や学生の都合がしやすい夏休み期間の実施で調整をする。

石神委員長：別添3-2の11ページ、12ページの写真にある、本や生活用具も含めて現代までの生活空間を表している資料ということか。

金出副委員長：そうである。

芝崎委員：写真の状態が現状の状態ということか。

金出副委員長：そうである。ザシキやトコノマは室内に置かれた箱などを少し寄せることで写真が撮れると思う。

芝崎委員：ザシキの書斎と思われる箇所はあまり変わっていないように見える。

金出副委員長：写真ではかなり圧迫感が感じられるが、実際のザシキはかなり広い。

澁谷家住宅のつくりは、千葉県北部の幕末の建物の典型例で、各市に1棟ずつ、同じような規模の住宅がある。将来的にはそれらの建物をグループ化して見ていくこともできる貴重な建物

である。

事務局：今後は、澁谷家住宅の撮影や調査についての情報を委員の皆様  
に流していきたいと思う。

芝崎委員：別添3-2の7ページに乗っている米蔵の写真で、一部ビニール  
シートで覆われている箇所があるが、どういう状況か。

事務局：令和元年の台風で主屋と米蔵の土壁が剥落した場所があった。  
北側は板を貼って養生したが、風が当たりやすいところは、シ  
ートで覆っている。

芝崎委員：建物は一度傷み出してしまうと一気に傷んでしまうこともある  
ので心配である。

金出副委員長：専門家に依頼し、公開前の修理を待つ間に傷みが進まないよう  
に養生してもらっている。

石神委員長：土壁が剥落しているところを抑えているカレンダー等の民俗資  
料もどうするか難しいところだと思う。

金出副委員長：カレンダー等を一度取り外し、土壁の養生をした後で同じ位置  
に戻すことは難しいが出来ないことはない。

#### (6) 文化財保存活用地域計画に関する成果指標について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

高見澤委員：別添4の表で指標、目標値については、基本的に達成できると  
思われるものを設定しているという事で良いか。

事務局：そうである。

高見澤委員：別添4の2枚目4段目にマイクロフィルム化と記載されている  
が、デジタル化ではないのか。現在は、マイクロフィルムを、  
いかに費用を抑えてデジタルデータにするかが一般的な課題だ  
と思っている。最近は、マイクロフィルムの材質も良くなって  
いるため劣化が進むのが昔より遅くなっているが、マイクロフ  
ィルムやフィルムを読み込むためのリーダーが入手しづらくな  
ってきている。大学で資料整理を行なっている、いかに費用

を抑えてデジタルデータに移行するかを図っている。

鎌ヶ谷市ではデジタル化ではなくマイクロフィルム化を進めていくという事で良いか。

事務局：計画作成の際に庁内でも同様の意見があがり、郷土資料館に確認をしたところ、マイクロフィルム化とのことであった。

高見澤委員：この項目については、成果指標の年5,000コマは達成していけると思うが、マイクロフィルム化が終わった後はデジタル化が課題になってくると思う。この項目については、いずれデジタル化していくことを考えておいた方が良いと思う。

芝崎委員：基本的には、マイクロフィルム化したものをデジタル化していくということはずっと行っていく事になると思うが、手間ではないのか。

高見澤委員：今の段階で、デジタルで撮影していく方が、一旦マイクロフィルム化してデジタル資料に置き換えるという手間と費用が不要になると思う。資料のデジタル化についても、業者にデジタル撮影を頼めば済むことだと思う。

芝崎委員：この項目については、文化庁からの指摘はなかったか。

事務局：なかった。

高見澤委員：官公庁がマイクロフィルムを使用しなくなっているため、マイクロフィルムの製造自体が少なくなっている。そうするとフィルム単価や現像費用が高騰する可能性が見込まれる。

事務局：いただいたご意見について、郷土資料館と共有する。

金出副委員長：郷土資料館で発行している郷土資料館だよりも、かなり前のものもバックナンバーとしてデジタル化されているが、1つ1つ開いて内容を確認しなくてはいけない。すごくいい特集があるが、今の表示だと中身まで見てもらうことができずに埋もれてしまっている。サイト内の文字量は多くなっても、目次を載せるなどして、検索に引っ掛かりやすくすると良いと思う。

## 6 閉会

【会議終了】以上

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

令和 5年 10月 23日

署名人 高見澤 美紀

芝崎 浩平